

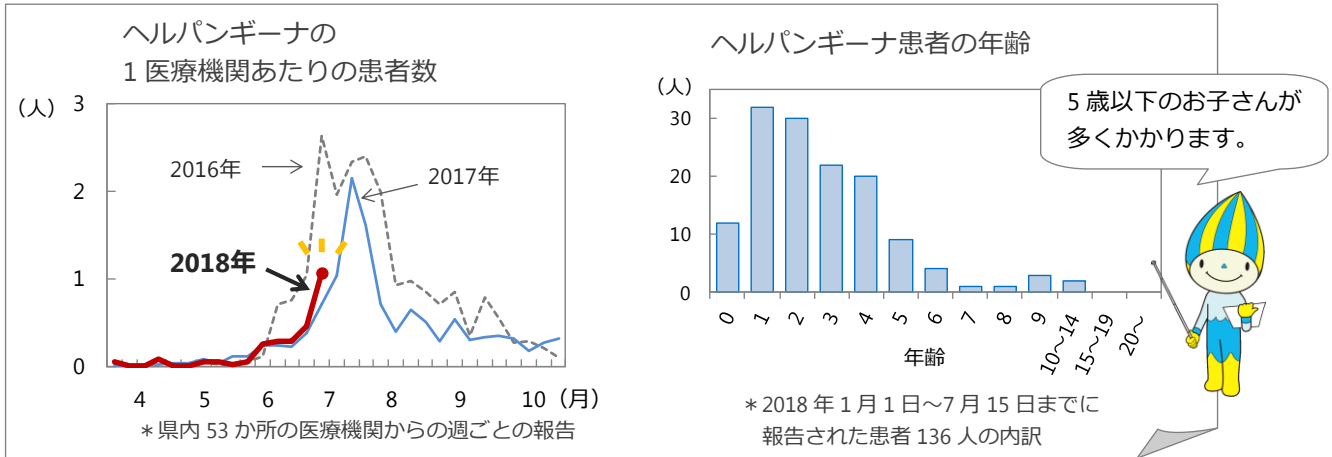
ぎふ感染症かわら版

平成 30 年 7 月 20 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



ヘルパンギーナに注意しましょう！

子どもの夏かぜの一つであるヘルパンギーナの患者数が増加しています。夏には毎年流行する感染症で、8月にかけてさらに患者が増えることが予想されます。小さいお子さんのいる家庭や保育所、幼稚園などではとくに注意が必要です。



どんな病気？

ヘルパンギーナは、コクサッキーウイルスなどのエンテロウイルスに分類されるいくつかのウイルスにより起こります。

高熱が出て、**のどが赤くなり口の中に水疱（みずぶくれ）**ができます。多くの場合、数日で自然に治りますが、のどの痛みが強いため、食事や飲み物を受けつけず脱水症を起こすことがあります。また、まれに髄膜炎などを合併することもあります。



夏かぜの手足口病も同じ仲間のウイルスによって起こります。

どうやってうつるの？ 予防方法は？

エンテロウイルスは、感染した人の唾液や便の中に出てくるため、手指を介した**接触感染**や、咳やくしゃみによる**飛沫感染**によってうつります。

予防には、**石けんを使った手洗い**が大切です。お子さんのおむつの取扱いにも注意し、唾液のついたおもちゃなどは洗浄・消毒しましょう。

便へのウイルス排せつは、症状が治まった後も2～4週間続くことがあり、長い間周りの人への感染源となるので注意が必要です。



トイレの後の手洗いはとても大切です



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

